全国壮年会連合ニュースレター　全国壮年会連合事務局 Mail Address : sonen@bapren.jp

# [ エマオ通信 ]

No.6 （2025 年 1 月 15 日発行）
発行人　高良 研一（会長）
編集人　稲川 仁（副会長・事務局長）
発信者　木村 均（書記）

日本バプテスト連盟全国壮年会連合　「伝道者養成と教会形成を担う働き」
24/25 年度主題：「私と教会が元気になるには」　聖句：わたしたちの心は燃えていたではないか（ルカ 24:32）

## <メッセージ> 「みんなで神学」

東京バプテスト神学校 校長 藤井秀一（花小金井教会　牧師）

一昨年から東京バプテスト神学校の働きに関わる中で、神学生の減少と教会の衰退の一因に、キリスト者の「神学離れ」があるのではないかと考えるようになりました。「神学」と聞くと、「牧師になる専門家」が学ぶものと思われてきましたが、「神学」とは本来一部の人のためのものではなく、神を愛し、主イエス・キリストに従おうとする私たち一人ひとりにとって大切な学びなのです。

現代社会は個人主義、つながりの希薄化、目的喪失感、不安と孤独に苦しんでいます。このような時代に生きる隣人に福音を語るために、私たちは常に新たに「神学」し続けたいのです。

振り返れば、19 世紀以降、「神学」の世界は大きく移り変わってきました。「自由主義神学」は聖書を歴史的批判の観点から読み、「危機神学」は神の言葉としてのイエス・キリストに立ち返ることを強調しました。その後、「解放の神学」や「フェミニスト神学」など、新たな視点からの神学が生まれ、今に至っています。神は変わりませんが、聖書の読み方、「神学」は、その時代の価値観の潮流に対応し、変化し続けてきたのです。

神学校において、今まで気付けなかった聖書の読み方と出会い、自らの信仰が問われる中で、この時代の人々に届く言葉が生まれます。使徒パウロは「自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです」と言いました。神を知り、人を知る営みに終わりはありません。今、わたしと教会が元気にされていくためのキーワードは「みんなで神学」です。

## <証①> 「創造主なる神の働き　～義父のバプテスマを通して～」

神奈川地方連合壮年会長　森 三樹（洋光台教会）

2024 年 12 月 29 日の礼拝は、義母、妻、長女、次女、孫 4 人の 9 名で、妻の実家の隣にある室蘭バプテストキリスト教会でささげました。

結婚当時、妻の実家には、神棚、仏壇がありました。義父は商売人でしたので、神棚は大切だったのだと思います。妻は、小学 2 年生のころ、室蘭教会に行きました。その後数回続けて教会学校に行ったとのことですが、義父に教会に行くなと言われて、行かなくなりました。義父が行くなと言った理由を、本人は覚えていなかったのですが、後年、彼女がバプテスマを受けたいと言ったからだと教えてくれました。ある休みに実家に帰ると神棚が始末されていました。これは想像なのですが、結婚してクリスチャンとなり、家族で教会に行く娘の姿を見て、彼女がバプテスマを受けたいと言ったことを思い出し、創造主なる神にはかなわないとの思いが芽生えたからではないかと思っています。

義父は、19 年 9 月に親族の了解を取り付け、墓じまいしたことを区切りとして、次の週から礼拝に出席するようになりました。義父の中ではすぐにクリスチャンになることができると考えていたようですが、学びを経て、20 年 9 月 6 日にバプテスマを受けました。19 年冬に施設に入り、その後のコロナ禍で、外出制限が続く中、やっと外出がかない、義母、私たちが見守る中での出来事でした。義父が出席した最後の礼拝にもなりましたので、神が、備えられた最良の時であったと感謝しています。

24 年 9 月 26 日義父が天に召されました。義父のバプテスマにより、神の栄光が現される葬儀をもつことができました。義父の変化に、創造主なる神の働きを感じ、ただ神に感謝する次第です。

## <証②> 「関西壮年会 宿泊修養会」

関西地方連合壮年会長 兼神学校献金推進委員　稲川 仁（宝塚教会）

2024 年 10 月 13 日から 14 日にかけて、関西壮年会宿泊修養会を開催しました。ZOOM での会議が多い昨今、宿泊を兼ねて語り合える時間を設けるために、この「宿泊修養会」を開催しました。オリエンテーション、夕食会、賛美・ワーシップ、自由討議、自由交流、朝食会、主題説教、全体討議を通じて、教会の現状と将来について重要な議論が行われました。

今回の宿泊修養会を通じて、「宿泊を兼ねた修養会は必要だ！」との声が上がりました。この経験を活かし、さらに発展させ、今後は老若男女幅広く参加できるようなイベントを開催していきます。

〈概要〉
- 主題：「私と教会が元気になるには」
- メッセージ：大津バプテスト教会 上田益之 牧師（関西壮年会 顧問）
- 目的：日常から離れ、共に語り合い、心と体を癒し、身を修め、心を養う
- 日時：2024 年 10 月 13 日（日）18:00 ～ 10 月 14 日（月）12:00
- 場所：同志社びわこリトリートセンター（滋賀県大津市北小松 179、077-596-0008）
- 参加者：6 教会 12 名（顧問 1 名、役員 5 名を含む）

〈主な議題〉
- 教会の活性化、神の家族としての男女の在り方
- 教会の将来、役員候補者の発掘
- IT 技術の活用、新しい世代へのバトンタッチ
- 伝統と新しい形態（家の教会や小グループ活動等）のバランス

〈自由討議の内容〉
- 新しい信徒・新しい役員への継承を意識する
- リーダーに協働する
- 過去からの負の遺産、良き遺産を知る
- 楽しさをモチベーションに伝道へつなげる（敷居を下げる）
- 教会の内と外の活動のギャップのバランスをはかる（教会外の連盟・連合の活動も必要）
- マンパワーの低下を克服する（魂の一丁目一番地、我々と教会は元気なはず）
- ジェンダーレスに対する正しい見方を見失わない。男性と女性それぞれの意義を認識（神の家族であることを忘れない）

## ＜今後の歩みと働きのための祈り＞

○ **2025 年 8 月 22 日（金）～23 日（土） 第 60 回全国壮年大会 in さいたま（埼玉の浦和教会でオンライン併用）**
- ✧ **北関東連合壮年会実行委員長**：戸田 浩司（西川口教会）
- ✧ **テーマ**：「これからの No Border な教会の話をしよう！ ～教会が『教会』であり続けるために～」
- ✧ **主題講演 講師**：朴 思郁 日本バプテスト連盟宣教研究所所長（西川口教会牧師）
- ✧ 多くの参加者にとって良き学びの大会となるよう、準備のための祈りをお願いします。

○ **各神学校の強みを生かした三つの神学校（西南大、東京バプ、九州バプ）と宣教研究所の相互連携、諸教会の研修に豊かに資することができるように。**
- ✧ 25 年度より神学校献金が、神学生奨学金だけでなく、東京バプ、九州バプの両神学校への運営資金支援（年間 350 万円）として豊かに用いられるために。
- ✧ 神学校献金の目標（24 年度総額 2500 万円）達成のために、各教会が豊かに取り組めるように。

○ **教会形成を担う働きとしての協力伝道の一環として：**
- ✧ 福岡連合の姪浜教会壮年会の壱岐教会での修養会
- ✧ 西九州連合の五島教会への協力伝道
- ✧ 北海道連合の 3 教会合同 WEB 礼拝
- ✧ 中部連合壮年会の福井教会への協力伝道

のように、各地方連合やその壮年会を通じて伝道隊を含めた協力伝道の業により、一人ひとりが元気になり、教会が元気になることができるように。

○ **信徒一人ひとりが伝道者、そして献身者となり、教会を担う主体となるために：**
- ✧ 神学校での（オンライン）受講等により、良き学びの機会が与えられるように。
- ✧ 信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。

○ **ジェンダーレスの課題や役員、奨学金委員の改選のために：** 主の豊かな導きがあるように。

○ **全国壮年会連合の 2025 年度の計画案や予算案の作成のために：** 主からの良き知恵が与えられるように。

## ＜お願い＞

○ それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。エマオ通信でその証を紹介します。

○ 第 1 回壮年大会（1965 年目白ヶ丘教会他）開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。